

道徳科学習指導案

令和3年10月 第3学年 指導者 大河原 麻紀子

1 主題名 広い心で 内容項目B-(10)相互理解、寛容

2 教材名 「わたしだって」 (出典：光文書院「ゆたかな心 3年」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領第3学年及び4学年内容B-(10)相互理解、寛容「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」に基づくものである。これは、広がりと深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。また、寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。このように、寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに、広い心が生まれ、それは人間関係を潤滑にするものとなる。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会をつくっていくために必要な資質・能力である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、1学期の教材「ドンマイ！ドンマイ！」(内容項目B 相互理解、寛容)で、相手の思いを理解し、失敗を認め、許そうとする心の大切さについて学んだ。その後の児童の行動を記録すると、相手を理解しようという思いをもって行動している場面が見られる反面、友達の失敗を許せなかったり意見の違いを受け止められずに感情的になったりする場面も見られる。児童期は、多くの出来事の中で失敗を繰り返しながら成長していく時期と言えるため、自身の心が揺れる経験を重ねることで、相手の過ちを許す心や、異なる考えや意見を大切にすることのよさを実感できるようにしていきたい。そして、自分に対する謙虚さと、人に対する寛容な心をもとうとする心情を育みたい。

(3) 教材について

本教材は、主人公(けい子)の大切な作品がクラスメート(修)の不注意により汚されるというところから始まる。謝る修に対してけい子はうなづくことしかできなかった。その日の夜、家族と食事に出かけたけい子は、見知らぬお姉さんにぶつかってしまうが許してもらった。友達の失敗をなかなか許すことができなかった主人公が、自身の失敗を快く許してくれたお姉さんと出会い、その心情について考えていく。主人公の気持ちの変化を、自分事として考えることを通して、他者に対する寛容な気持ちや、自分に対して謙虚であることの大切さについて考えることのできる教材である。この教材のように、友達を許す・許さないという場面は、普段児童が生活している中で起こりうることであり、児童は身近な問題として捉えることができると考えられる。自分の失敗を許してもらった経験を想起することで、他者に対する寛容な気持ちについて考えさせたい。そして、この寛容な気持ちによって広がりや深まりのある人間関係が築けることに気付かせたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入場面で ICT（テキストマイニング、学習支援ソフト）を活用して、めあてに関わる児童のアンケート結果を表示することで、児童が自分事として問題意識をもてるようにする。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・児童が主人公の心の揺れを自分事として捉え考えることができるように、本音が引き出せる中心発問と補助発問を準備する。
- ・主人公の気持ちの変化について話し合うことで、「広い心」について多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・発問に対する児童の考えを把握し、意見の交流を促すために学習支援ソフトを活用する。
- ・意見交流を行う場面で、他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めていけるように、学習支援ソフトのグループ機能や拍手機能を活用する。
- ・意見交流を行う場面で、児童同士が考えを広げていけるよう、4人組から全体へと話合いの形態を変えていく。
- ・全体交流の場面は、話し合うことに集中できるよう、ワークシートの記入はメモ程度とする。話し合った内容（板書）は、授業後にワークシートに添付することで、道徳的価値について授業後も振り返れるようにする。
- ・学習のめあてについてもう一度考える場面で、ICT（テキストマイニング・学習支援ソフト）を活用し、クラス全員の考えを共有することで、自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。
また、授業前と同様の質問に答え振り返ることで、自身の気持ちに変化が現れたかどうか視覚的に捉えられるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや考えを振り返るために

- ・終末に、本時で考えたことを踏まえて、これまでの自身の生活を振り返り、他者への寛容な心について理解し実践しようという気持ちをもてるようにする。
- ・振り返った内容は、児童同士で共有せず、自分自身と本心で向き合えるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

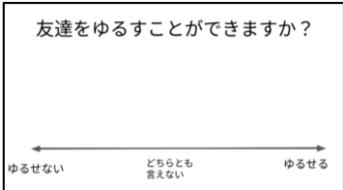
お姉さんとの出会いによって起こった主人公の気持ちの変化について考えることを通して、自分に対して謙虚であろうとする心情や他者に対する寛容な気持ちをもとうとする心情を育む。

(2) 準備

教師：教科書、場面絵、掲示用モニタ、ICT 端末

児童：教科書、ワークシート、ICT 端末、筆記用具

(3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点 ☆研究上の手立て
1 事前アンケートから本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしい」の文字が大きいな。 ・「親切」という考えもあるな。 ・許せる人もいるな。 ・許せない人が多いな。 ・いろいろな考えの人がいるのだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆「広い心」という言葉から受ける印象を事前に集めておき、その結果を提示する。全員で共有することで、学びに向かう意欲付けを行う。（テキストマイニング） ☆「友達の失敗を許せるか」に対する各児童の考えを事前に集めておき、その結果を提示する。全員で共有することで問題意識をもたせる。（学習支援ソフトのスタンプ）

		集計)	
【めあて】		広い心をもつために大切なことは何だろう。	
<p>2 教科書の教材文の範読を聞きながら出来事を捉える。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・修→ぶつかった。 ・けい子→一生懸命描いた絵が汚れた。 ・お姉さん→けい子の失敗を許した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値に迫るため、教材を範読する前にけい子とお姉さんの気持ちについて着目するよう伝えておく。 ・登場人物の気持ちを確認し、板書しながら読み進めることにより、教材文の内容が理解できるようにする。
<p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○修が一生懸命謝ったとき、けい子はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○お姉さんが謝ったとき、けい子はどう思ったのでしょうか。</p> <p>◇お姉さんは、自分の服が汚れたのにどうして謝れるのでしょうか。</p> <p>◎帰りの車の中で、けい子はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>◇題名「わたしだって」の後に続ける言葉を考えてみましょう。</p>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくなのに。 ・許さなくちゃいけないのは分かっているけれど。 ・なんで謝ってくれたのだろう。 ・自分が濡れたのに人の心配をしてくれるのだな。 ・修がぶつかったときの私と違ったな。 ・広い心をもっているのだな。 ・お姉さんのように修に謝ろう。 ・友達が間違えたり失敗したりしたとき、許せる人になろう。 ・修を許せばよかった。 ・お姉さんはやさしかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すっきりしない気持ちを自分事として捉え、考えることができるよう言葉掛けをする。 ・様々な児童の意見を取り上げ、補助発問で本音を引き出し、考えを深めることで、本時の道徳的価値の理解につなげられるようにする。 ☆発問に対する自分の考えをできるだけ多く出すことが、話合いの充実につながることを伝え、自分の考えがもたら学習支援ソフトに何度も入力するよう促す。 ・話合いの形態を、4人組から全体と変えていくことで、児童同士が考えを広げていけるようにする。 ・児童同士の話合いが活発になるよう発言を聞きながら称賛したり問い掛けたりする。 ☆多様な考えに触れ、自分の考えを深めるために、友達の意見を聞いて納得したり発見したりした場合には、学習支援ソフトの拍手機能で示すよう言葉掛けをする。

